



読者投稿

毎月、第2、4週に掲載。地域の課題や出来事、まちの話題などのほか、毎月決まったテーマでの投稿や、身近な題材で自由に書いていただくエッセーを紹介します。

★12月のテーマは「夢」。

締め切りは、12月17日(火)。見る夢、かなえる夢、そして新年は初夢。「夢」にまつわる話をお寄せください。※テーマ「秋」に多くの投稿をいただき、11月も続けて紹介します。

テーマ投稿「秋」

「日本人は虫の音を、虫の声として聴くが、外国人は雑音として認識する」。1978年のベストセラー本の影響で、こうした神話がいまだに取り上げられるのは驚きだ。専門家によって繰り返し、否定されてきたのに、秋の季節である「虫の音」を、今年も存分に楽しんでいる。56歳になるインドネシア人の妻が「虫の鳴き声を聴いていると心が穏やかになる」と言っている。夜になるとテレビを消してしまおうのだ。テレビの音は雑音と

虫の音

佐々木 晋さん(63歳・会社員) = 恵庭市

して認識しているようだ。毎晩テレビをつけずに虫の音に耳を傾けて夕食を取る。虫の邪魔をしないように、会話もついついささやき声になってしまふほど。小学生の頃は開け放った窓から虫たちの合唱が聴こえてくると、「ああ、もう夏休みも終わりが」と悲しくなっていたが、今では虫の声が楽しくてたまらない。北海道の秋は短い。虫たちもあつという間に冬支度に入ってしまう。虫の音が響き渡るうちに、秋を満喫しようと思う。

パリ五輪から約2ヵ月半。テレビや新聞などで、各国の選手がメダルを取って歓喜の声を上げたり、涙する姿を多く目にした。傍らで、負けて悔しがる選手もいた。その場面を見るたびに違和感を覚えたことを思い出す。8歳から剣道を始めて40年になる。40歳で6段を取得。選手としてだけでなく、20代後半から10年間は大人や子供の指導に当たった。高校時代から腕を上げ、2年の時には全国大会で入賞。全国区の選手に成長すると同時

ガッツポーズ!?

長尾 利華さん(48歳・自営業) = 千歳市

に、普段の振る舞いに注意を払うよう求められることが多くなった。剣道の本質は、技術や勝敗を超えた精神的な成長にあり、相手を敬う心が重要だ。試合で勝つておごってはいけない。ましてやガッツポーズは問題外だ。そうした場合は反則を取られ負けてしまう。剣道は五輪種目ではない。だが、その精神が出場選手に浸透すればいいのにと思う。と口野球チームが勝つと思わずガッツポーズをし、ハツとして苦笑い

またあの歌声が聴きたくて、演奏会の案内に目を留める。3月末、新聞の地域版を開いた時、出身高校名が目に入った。翌日開催される合唱部の定期演奏会の案内だった。会場は中島公園にあるキタラ。これまで興味を持つことはなかったのに、なぜかすぐに行こうと決めた。年頃から気がめいることが続いた。息子と大げんか、持病の悪化言葉の行き違いでトラブル。そんな現実から逃れるための演奏会。素晴らしい。

校歌

菊地 真由美さん(60歳・主婦) = 札幌市

彼らの一生懸命で凛(りん)とした姿に励まされ、若々しくすがすがしい歌声に気が晴れる。約40年ぶりに聴く校歌は懐かしく、胸が弾んだ。心から感謝とエールの拍手を送った。会場を出る頃には気分が軽くなった。後輩たちが窮地の私を誘ってくれたようでも母校とつながっていると感じた。これまで多くの縁に恵まれて支えられてきたことを思い出す。一人ではないとの思いが、つらい現実や困難を乗り越える励みになる。

投稿のきまり

原稿には手を加えさせていただくことがあります。一般、テーマ投稿、エッセーとも文章は400字程度で、未発表の原稿に限りです。年齢制限はありません。ペンネームは使用可。受け付けは郵便、Eメール、ファクスで。いずれも郵便番号、住所、氏名、年齢、職業、電話番号の明記を。採否のお問い合わせはご遠慮ください。採用された方には薄謝をお届けします。

郵便

〒066-0073 千歳市北斗4丁目13-20 株式会社メディアコム ちゃんと編集部「あしたの風」宛

Eメール

ashitanokaze@chanto.biz

FAX 0123-27-4911

「エッセー」

せおと



マスクも怖い 市内を巡回するエコバス停で待っている。バス専用車の中から挨拶される人がいます。マスクをして一人で運んでいる人です。コロナが季節性インフルと同じ「5類」に移行して1年5ヵ月余り。「誰だろう」と不思議な感覚で、「マスクは必要か?」と悩む。コロナの間、マスクを付けた女性は目元を化粧し、声をかけられないと分かります。春先に恵庭駅とビルの渡り廊下で、マスク姿の2人連れの女性の1人に、体格や歩き方からAさんだと気づき、

「お元気ですか」と声をかけました。連れの人が「私も元気です」と挨拶され、その女性は声で分かっても、何よりです」と言うのが精いっぱい。先日、偶然にも同じ渡り廊下ですれ違いざま、「ア、アッ」と声と手を上げながら、ノーマスクのAさんになりかたにも気がつかず、誰だろうと、しばらく思い悩みました。ああ、コロナは怖い。いやいや、マスクも怖い。ちなみに私は屋外では、ほとんどマスクをしませんでした。

不思議な人さん(88歳・団体役員) = 恵庭市

読める? 北海道の地名



ちぶらんけうし 重蘭窮



おしりじまん

齋藤 槇/さく 福音館書店 どうぶつたちのいろいろなおしり。まんまる、しましま、大きい、小さい。誰のおしりかな? いろいろなおしりを見てみよう!



本の森から

千歳市立図書館(指定管理者 株式会社山三ふじや)

図書館に新しく入った絵本より、3冊をご紹介します。

かいじゅうのすむしま

谷口 智則/作 アリス館 かいじゅうは、ひっそり住んでいた。大雨が降ったら、島に傘をさした。日照りになったら、雨を降らせた。あるとき、隣の島からミサイルが飛んできて…。



クマのひとりのじかん

マルク フェルカンプ/作 イェスカ フェルステーヘン/作 野坂 悦子/訳 化学同人 みんなのためにピアノを弾くのが大好きなクマさん。ひとりの時間も大好き。「もっときかせて」というみんなの声。心地よい距離を探す絵本。



怪盗ちゃんとからの挑戦状 解決編

ちゃんと10月18日号に掲載された「怪盗ちゃんとからの挑戦状」君は解けたかな? 答え合わせをするよ!

クロスワードパズル

Crossword puzzle grid with letters and numbers A-F

答え スポーツノヒ(スポーツの日)

PRESENT 読者プレゼント

応募締切 10月30日(水)必着 ※当選者の発表は発送をもってかえさせていただきます

1名様 「サッポロ クラシック 富良野 VINTAGE」 1ケース(350ml x 24本) を1名様にプレゼント!



サッポロビールは、摘みたての富良野産ホップを生そのまま使用した「サッポロ クラシック 富良野 VINTAGE」を10月16日に北海道エリアで数量限定発売しました。収穫したての富良野産ホップを生そのまま使用し、芳醇な香りと爽やかな後味が楽しめることから、毎年多くの愛飲家が発売を心待ちにしている限定商品です。「今しか飲めない」秋限定の「サッポロ クラシック 富良野 VINTAGE」24本入り1ケースを1名様にプレゼントします。提供 サッポロビール北海道工場

※ご応募にあたりご提供いただいた個人情報につきましては、プレゼント発送のために使用します。抽選・当選者決・商品発送後は当社の責任において情報を適切に破棄・消去いたします。

応募方法 ①郵便番号・住所 ②氏名(フリガナ) ③性別 ④年齢 ⑤職業 ⑥電話番号 ⑦今週のちゃんとで面白かったコーナー ⑧面白くなかったと感じたコーナー(理由を含めて) ⑨秋に必ず食べる食材と、それによく合う飲み物の組み合わせを教えてください。以上すべてをご記入の上、「サッポロ クラシック 富良野」と明記し、WEB応募フォームまたはハガキ・FAX・Eメールでお送りください。⑩～⑪に未記入がある場合、抽選から外れることがあります。 【住所】〒066-0073 千歳市北斗4丁目13番20号 (株)メディアコム「ちゃんと」編集部 【FAX】0123-27-4911 【Eメール】present@chanto.biz

